**第10章　電気･ガス･水道**

**電気**

　昭和60年における電灯需要の契約口数をみると、368万1900口にのぼり、前年の361万4714口に比べ1.9％（6万7186口）の増加を示した。その内訳をみると、定額制が45万7343口、従量制が321万6637口と、前年に比べそれぞれ2.0％、1.8％増加している。また、契約口数の増加に伴いその使用電力量も109億7001万kWhと前年より4.9％増加し、１口当たりの年間使用量も前年に比べ3.0%増の2979kWhとなった。
　一方、電力需要についてみると、契約口数は51万1809口で、その使用電力量は319億791万kWhで、前年に比べそれぞれ1.1％、3.0％の増加であった。
　このうち、500kW未満の需要家数は50万9994件で、総需要家数の99.6％と大部分を占めている。契約電力では877万3135kW、使用電力量では131億9715万kWhとなり、それぞれ64.3％、41.4％のウェイトを占めている。前年に比べ、契約電力は1.8％の増加、使用電力量は3.3％の増加であった。
　なお500kW以上の大口電力契約による需要家数は1815件で前年より0.6％減少し、契約電力も488万195kWと0.5％減少したが、使用電力量は187億1076万kWhと2.7％増加した。

**ガス**

　昭和60年中の大阪ガス株式会社におけるガスの生産量は、29億1788万m3で前年の29億2596万m3に比べ、0.3%の減少を示した。これは石炭ガスの生産量が３億4621万m3で、前年に比べ3.1％減少したのが主要原因である。また石炭ガスの生産量は55年以来減少を続けている。逆に混入ガスは、25億7167万m3で前年に比べ0.1％の増加であった。
　一方、消費量は19億3998万m3で前年に比べ2.7%増加した。これは商業用、公用、医療用、家庭用がともに減少したものの、工業用が６億4913万m3で13.7％増と大きく増加したためである。
　また、地域別に消費量をみると、大阪市地域が全体の37.9％（前年より1.2ポイント低下）を占め、次いで泉北地域が22.0％（同1.4ポイント上昇）となっている。

**水道**

　昭和60年における上水道の給水総量をみると、年間給水量は12億8724万m3で、前年に比べ0.3％の増加となった。
　これを地域別にみると大阪市地域が５億2535万m3で全体の40.8％を占めている。
　栓数は261万9459件で、前年に比べ1.7%の減少となった。
　また、１人１日平均給水量は409 ｌで、前年に比べ1 ｌ減少した。これを市町村別にみると、１位が大阪市の546 ｌで、以下岬町の449 ｌ、摂津市の414 ｌの順となっている。
　工業用水の使用状況をみると、１日当たりの総使用量は、前年比0.4％増の　898万3604m3となった。
　このうち淡水の使用量は774万4674 m3で、全体の86.2％（前年より0. 6ポイント上昇）を占めており、前年に比べ1.2％の増加となった。これを水源別（淡水）にみると回収水が大半の86.1％を占めており、なかでも化学、鉄鋼が回収水全体のそれぞれ49.3％、24.6％とこの２業種で７割以上を使用している。
　次に府下における昭和60年度末現在の下水道の普及率をみると、排水施設が59.9％で前年より1.3ポイントの上昇となっている。このうち、大阪市地域は排水施設、処理施設ともに99.4％とほぼ全域に普及している。
　また、都市下水路延長では、都市計画決定が９万6910m、供用開始が５万7788mとなっている。